

# 希望を語る

2000 年 8 月発足

22 年の歴史を持つ患者会“希望を語る会”ニュースレター



希望を語る会事務局：健康増進クリニック

Tel.03-3237-1777 Fax03-3237-1778

[www.kenkou-zoushin.com](http://www.kenkou-zoushin.com) [info@kenkou-zoushin.com](mailto:info@kenkou-zoushin.com)

## 再生医療の時代

院長 水上 治

3 年前、上田実名古屋大学名誉教授の「驚異の再生医療—培養上清が世界を救う」（講談社）を拝読し、脳卒中、パーキンソン病などに効く可能性があるとのことで、早速上田先生に連絡し、交流が始まり、当院にも何度か来ていただいて再生医療の可能性についてご指導を受けています。他者の幹細胞を培養した培養上清液の点滴は、安全性が確認されていて、当院でも可能なので、以後少しずつ実施しています。もちろん手応えは患者さんによりまちまちですが、今、脳神経疾患の方を中心に、リピーターが増えています。

上清液には幹細胞が分泌する 2000 種類もの生理活性物質（サイトカイン・ケモカインなど細胞が分泌する天然物質）が含有され、骨髓に入って自分の幹細胞（iPS 細胞の様な万能細胞）を誘導し、更に患部に入行って、その部位を修復すると考えられています。昔は脳神経細胞は絶対に再生しないというのが常識でしたが、最近では脳神経細胞でも条件次第で再生することが分かっています。副作用はほとんどありません。多種の生理活性物質がリンパ球の機能を増すので、一種の免疫療法として癌にも期待されています。

iPS 細胞は癌化の問題を完全にはクリアできず、行き詰っており、ES 細胞は胚芽を使うので倫理上の問題があります。この点幹細胞培養上清液は細胞を含まず安全なので、自費クリニックを中心に広がり始めました。地方のあるクリニックで、脳疾患中心の再生医療センターを開くというので、先般見学に行ってきましたら、院長は患者さんの著効例を動画で見せてくれました。

私の臨床的なスタンスは、十分な情報下で、患者さんが新たな治療に挑戦することです。

# 世界医療視察 6 ～ウィーンのクリニック訪問～

院長 水上 治

私が補完医療へと踏み出した大きなきっかけは、2006年のウィーンの癌専門クリニック訪問です。前から交流のあるウィーン大学教授のヴォルフガング・ケストラー医師から日本の何人かの医師が招待されていたのです。市内から少し車で行くと、緑の中の自宅脇にあるクリニックに到着（写真1）、患者さんはいない日でしたので、ゆっくりと院内を見学しました。ギリシャ風置物などあり（写真2）、上品できれいなクリニックで、今も印象深く思い出します。

興味深かったのは、採血した血液を位相差顕微鏡で覗くことで、患者さんのいろんな情報を得られること（写真3）、量子力学を応用した診断機器で診断すること、癌の温熱療法をやっていること（写真4）（優れものなので当院への導入を考えましたが、東京までのネットワークがなく、故障時困るので止めました）などです。ヨーロッパでは、癌補完医療は一般に認定されています。

ケストラー教授はドイツ腫瘍学会（補完医療の学会）副会長をしておられ、何度も講演をお聞きしましたが、理論と実践が卓越しているヨーロッパでもトップクラスの実力者です。素敵な奥様が昼食など面倒を見てくださり（写真5）、高校生の娘さんとボーイフレンド、小学生の息子さん（上の息子さんは医師）にもお会いしました。仲がよさそうな家族でしたが、後日談があり、その後ギリシャの研究会でケストラー先生とばったりお会いしたら、ドイツ人の女医さんと一緒に、再婚したとのことでした。あの奥様や子供さんは今どうしているのでしょうか。

ケストラー先生は、大指揮者カラヤンの様に、飛行機のライセンスと自家用飛行機があり、夕方からザルツブルクに連れて行ってあげるとのことでした。正直なところ一瞬恐怖心がよぎりましたが、皆乗るといので、彼に命を預けて乗せてもらいました（写真6）。

アルプスの山々が良く見え（わざわざ近づいてくれました）、何だ、ケストラー先生操縦上手いなと感心しているうちに、ザルツブルク空港（別名カラヤン空港）に無事着陸、市内を散策して、ウィーン空港にUターンしました。

立派なクリニック訪問と自家用飛行機搭乗で生涯忘れられない旅行でした。

あの緑の中の瀟洒なクリニックは今も私のあこがれです。



写真1 ウィーンの森の瀟洒なクリニック

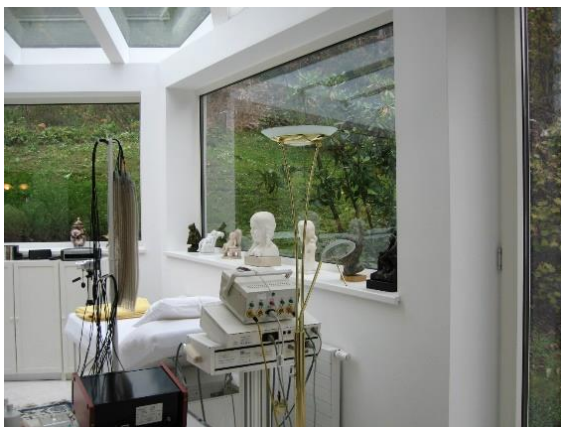


写真2 緑の中の気持ちのいいクリニック



写真3 太めのケストラー先生と位相差顕微鏡

写真4 欲しくなったドイツ製の温熱マシン

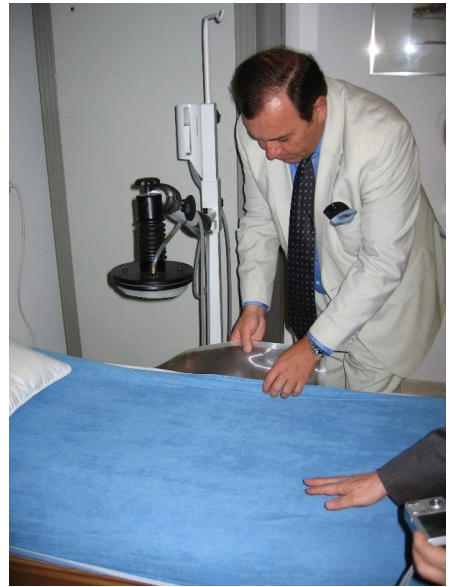


写真5 美味しいお食事を家族と頂く



写真6 飛行前、顔が恐怖でひきつっている？

## みーこねーちゃんの絵手紙

佐藤美恵さま



この作品は2012年の頃の作品です。佐藤様は1995年に脳梗塞で左半身麻痺となり、2012年より当院にて鍼治療を開始しました。元副院長の加藤医師の勧めで始めた絵手紙。もともとは右利きですが、左の麻痺を克服するために、左手で書いています。





キセキレイ S.S.

孫のつくった  
カレーを  
たべる  
おいしかった  
涙が出た  
蝉が鳴く  
短い命を  
知ってか  
声の限りに  
鳴く

五行歌  
小林美智代さま

### 《院内セミナー》水上医師

9/6 (火) 10:30~

10/4 (火) 10:30~

がん・難病・健康回復の  
最新情報をお話した上で  
皆さんを交えた意見交換を致します  
10月のタイトル「欧米の最新情報」

#### ★ 診療についての重要なお知らせ ★

9月・10月の日曜開院日： 9/4 & 25 10月は23日のみです

引き続き除菌作業を行いながら診療させていただきます  
患者さまにも、マスク着用と手指の消毒のご協力をお願いいたします  
ご不便をおかけいたしますがどうぞよろしくお願いいたします

曜日	治療時間	電話受付
月・火・木・金	9:30~16:30	9:15~16:00
日曜日 (月2回)	9:00~14:00	8:45~14:00
<p>※ 定休日：水曜日 / 土曜日 / 祝祭日          ※ 日曜日の院長外来を受け付けます</p>		

★ 「希望を語る」は患者さまの体験談や、また特技を生かしたメッセージ、いま語りたい事、その他何でも、情報交換の場を提供させていただく冊子です。写真や原稿などございましたら是非、事務所またはスタッフまでお知らせください。お待ちしております。